

## 「文化庁の人のようになる」 感情的必要のトップテン Part10

今まで、「感情的必要のトップテン」を見てきましたが、今回は最後の「感謝されること」です。

人が良い事をしたり、人格的に立派な事をすると、個人的に感謝をし、ほめる事は良い事です。しかし機会のある時に、他の人の前で感謝する事はもっと良い事です。機会は必ずありますから、あなたの結婚相手、友達、子供、あるいは、職場の人を、他の人の前で感謝し、ほめてください。

人の犯した間違いではなく、正しい事に焦点を合わせてください。気をつけていないと、私たちは他の人に対してその悪いところだけに注目してしまい、罰を与えたり、叱ったりします。そうではなくて、私たちは人のした正しい事を見つけて、その人を公の場でほめ、感謝をすべきです。人の過ちや悪さを見つける仕事は警察庁の人にお任せして、私たちは文化庁の人のようにならなければなりません。文化庁の人は毎年文化功労者を見つけます。文化功労者とは、日本文化の向上発達に特に貢献した人を言います。つまり、文化庁の人は、他の人のいいところを見つける専門家なのです。私たちも文化庁の人のように他の人のいいところを見つけてほめましょう。特に子を持つ親は、子供のいいところ、いいふるまいを見つけて、ほめちぎってあげてください。子供だけでなく、誰でもそうですが、否定的なことばを言われるよりは、ほめられた方が、もっと動機付けを与えられ、ヤル気を起こすのです。

私はアメリカに二年間住みましたが、アメリカ人は一般的にお互いをほめるのが上手でした。具体的な事として、互いにカードを送ったり、トロフィー、リボン、記念の盾等を贈り合っていました。「世界で一番のお母さん」とか、「世界最高のおじいちゃん」などと書いたものを家族同士贈り合うのです。日本では、文化功労者に選ばれた人は文化勲章と毎年 350 万円の終身年金をもらいます。そんな大金を互いに贈る事は出来ませんが、心のこもったプレゼントや感謝のことばを贈る事は出来ます。早速今日から実践してください!God Bless You!